



ヒノヒカリにトビイロウンカ抵抗性を取り入れた水稻新品種

関東BPH1号

New Rice Cultivar “Kanto BPH1”, Isogenic Line of Hinohikari with Brown Plant Hopper Resistance

作物研究所は、DNAマーカー選抜技術を使って野生稻のトビイロウンカ抵抗性遺伝子 *bph11* を西日本の良食味品種ヒノヒカリに取り入れた同質遺伝子系統「関東BPH1号」を開発しました。この品種の作付けによりトビイロウンカの被害軽減が期待できます。

関東BPH1号の育成経過

「関東BPH1号」は野生稻 *O. officinalis* 由来のトビイロウンカ抵抗性遺伝子 *bph11* を持つインド型イネ「IR54742 (GSK178-2)」に「ヒノヒカリ」を4回戻し交配し、DNAマーカー選抜を用いて開発した同質遺伝子系統です。

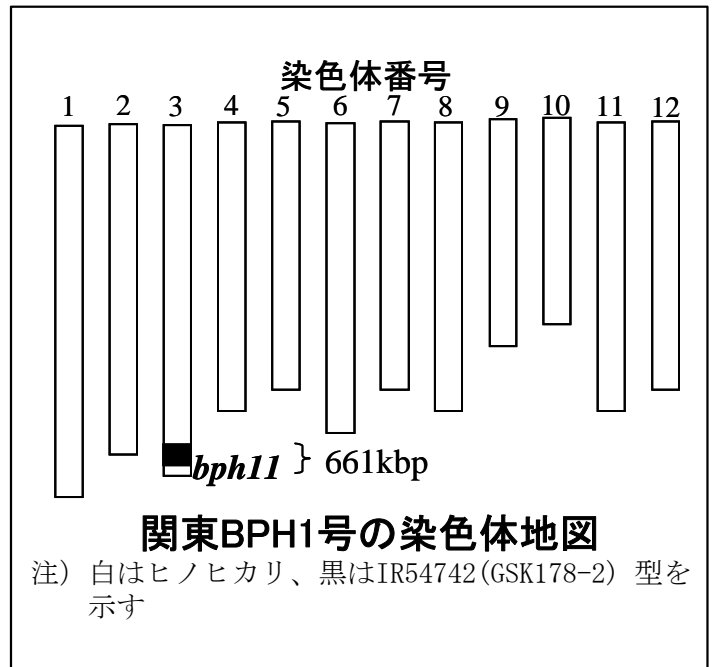


関東BPH1号の特性

- トビイロウンカには“やや強”の抵抗性を示します。
- 出穂期および成熟期は「ヒノヒカリ」並の“晩生の晩”です。
- 稈長、収量性、品質、耐病性などの特性は「ヒノヒカリ」並です。
- 炊飯米の食味は「ヒノヒカリ」並です。（育成地の成績による）

DNAマーカー選抜は染色体上の特定のDNA塩基配列を目印(マーカー)にして育種材料の選抜を進める技術です。

同質遺伝子系統とは、目的の性質以外は親品種と遺伝的にほとんど同じ特性の品種です。



関東BPH1号は、九州沖縄農業研究センターと共同で育成した品種です。

農研機構 作物研究所 稲研究領域

問い合わせ先: 企画管理室 tel: 029-838-8260

E-mail: www-nics@naro.affrc.go.jp <http://www.naro.affrc.go.jp/nics/index.html>